

## 第1回 富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

日 時：平成29年10月10日（火） 午後2時～4時

場 所：青少年スポーツホール2階 会議室

出席者：○協議会委員 15名

友田委員、中井委員、溝口委員、山田委員、吉村委員、増田委員、小野委員、藤本委員、池田委員、市川委員、中西委員、和田委員、井筒委員、皆見委員

三崎委員代理：大平氏

○事務局 5名

まちづくり政策部 坂本次長

まちづくり推進課 仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、  
坂口地域整備係長、竹内

○コンサルタント 1名

特定非営利活動法人きんきうえぶ 寺田

### 会議記録

#### 1. 開会

（事務局：仲野）

（皆見委員）

- ・事務局あいさつ

#### 2. 委員の紹介

（事務局：仲野）

（増田会長）

皆さんこんにちは。指針が出来て以来、半年が経過しました。通常の行政の進め方というのはこんなもので、また半年間全然次の会議が開かれへん。ただ今回の場合は、まちづくり会議という形で何度となく活動いただいて、今日その報告会、今後のあり方ということがございますので、半年間止まらずに動いているということは非常に良いことやと思っています。私とたぶん行政委員以外は、まちづくり会議の方で意見交換していただいているメンバーばかりやという風に思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

ちょっとだけ説明しときますと、私自身は3月末に定年退職して、その後特任教授をしているん

ですけど、なんと植物工場研究センターのセンター長をしまして、その近辺で府大マルシェっていうので、レタスを売っていると思いますけど、毎日この植物工場研究センターでは、4000株から5000株が出てきまして、それを全部売り切らないと赤字になるという。直接私がおの経営をしているわけではないんですけども、センターの中にはそんな経営部門があつてですね、横目で見ながら。できましたら美味しいレタスですから買っていただければと。

その辺にして、前に進めたいと思います。それでは今日ですけども、議事3つございます。金剛地区再生指針推進の取り組み報告というのと、今後の取り組みの進め方についてというのと、キックオフイベント（シンポジウム）の開催についてという3つ。4時前を目標に議論していきたいと思つたしますので、よろしくお願ひしたいと思つた。

それでは早速ですけども、まず議事1、先ほどもござつたように意見交換会がまちづくり会議というところで発展しておりますけれども、その活動も含めて再生指針推進の取り組み報告ということでよろしくお願ひします。

### 3. 議事

#### (1) 金剛地区再生指針推進の取り組み報告

(事務局：坂口) (きんきうえぶ：寺田)

- ・資料2説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。その間、会議としては9月も含めて4回、部会を2回という精力的に会議をしていただいて、ある一定こういう形で4つの部会の中で具体的な動きですね、つながりつつあるという報告でしたけれども、何かご質問ないですか。会議をやつている中でこんな点悩んでいるんやという点なりありましたら自由に発言いただければと思つた。いかがでしょうか。

はい、井筒さん。

(井筒委員)

第三包括けあばる金剛の井筒です。よろしくお願ひします。先ほど寺田さんが活動について、4つの部会の活動の中を紹介していただいたんですけど、その中で私居場所づくり部会の方にもですね、参加させてもらつてまして、それでちょっと補足説明と、ちょっと困つてるといふか課題に感じているところというのを報告させていただけたらと思つています。この中で、急に金剛地域つながり応援実行委員会という名前が突然挙がつてきているので、これって何かなと思われている方もいらっしゃるのかなと思つて、補足の説明をさせていただきたいと思つた。この金剛地域つながり応援実行委員会というのはですね、この金剛地区の指針をつくるちょっと前からですね、実は金剛団地地域ケア会議というのを開催してござつて、この会議が出来たきっかけというのが、URさんの方からですね、孤独死の課題をいただきまして、ちょっと全戸訪問をね、一緒に高齢者の全戸訪問をしてもらえないかというご相談があつたんですけども、金剛団地がかなり5000戸あつて、そのうち高齢者の世帯が700戸くらいありまして、その700戸のうち介護保険の認定を受けていない方を差し引いても350軒は1軒1軒を訪問して、というのはちょっと難しいのか

などということで、そういう見守り体制をつくっていく中でこの緩やかな地域のつながりというか、見守りができるような体制作りをこれから考えていきたいと思いますということで、URさんと包括と自治会さん、寺田さん、社協さんも入っていただきまして、ふらっとスペースの岡本さんも入っていただいて、どんな風に見守り体制をつくっていったらいいかって話し合いを重ねていったところだったんですね。その中でやっぱり皆さん身近なところで集いの場が必要だということで、じゃあ一度URさんの集会所を借りて、カフェをしてみたらどうかなという話が出たところに、ちょうどこちらの金剛地区のまちづくり会議の居場所づくり部会の方でも、そういうカフェというか集いの場をつくっていこうとお話が出まして。で、メンバーもちょっとかぶっているということもありまして、そこで今回は協力をさせていただいて、10月13日に集会所をお借りして、カフェができることになった次第なんですね。その中でも私たちが今後の展開をどうしていったらいいかなと考えている中で、やっぱりこの相談機関とか、専門機関でずっとカフェを続けていくというのは、なかなか難しいんです。かなりの労力も今回要りましたし、皆さんの協力がなければ、できないなあ実感したので、この中の目的の一つにしても、担い手探しというのは、なかなかどこでも難しいと聞いているので、この会の参加者の中から、今後の担い手というか、特技を持っていらっしゃる方がいれば、ちょっとご登録という形でさせていただいて、今後色々な地区でカフェをする時に、その方の活躍の場というんですかね。それも合わせて知っていただければいいなあということで、今回このつながりカフェをさせていただくことになった次第なんです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。ものすごく大事で、こういう一つの具体的な活動をした時に、誰が発案して、企画段階の役割分担はどうなって、当日具体的にどんな人がどんな役割を担って、それに伴ってどんな備品とか道具が要ったか。そういうのをカルテ化して行ってほしいですね。そうすると、次の人やろうと思ったら、そのカルテさえ見たら、当日こんな備品が要るなあとか、当日こんな役回りを意識して人材配置しないと回れへんなあとか、そういうことが見えてくるんですね。

例えば、もう少し突っ込んでいけば、本当はそこでお金がどう回ったかと基本的には控えてほしいですね。公的支援はどんな形で、受益者負担的な参加者はどれくらいお金払って、ひよっとしたらそれに寄付行為みたいなことをした人がおったりとか。お金がどう回ったかというのと、人がどう回ったかというのと、それと物がどう回ったかというのをカルテ化してほしいですね。私なんかは色々なところでお手伝いをしていて、それを何回か重ねると一つパターンができて、人が変わってもそのカルテさえ見たら、継続できると。そんなんを各々の部会で何か活動したら必ずそれをメモをとっておくというか、カルテ化しておくというか。

何か所か、例えば私なんかは大和川で水辺の学校という子どもを集めて、子どもの水辺観察会みたいなことを民の力でやりましようとした時も、カルテづくりをして、3年間はその継続をして、それも私がお金を出して、行政が手を引いたりしたとしても継続していける。こういったのを一つやっていただいて、今みたいな経緯とか、きっかけづくりとか、特に大事なものは誰が走り回って、どんな人材見つけてきたんかとか、誰が引っ張り込んだんやとか、そういうところって結構大事で、そういうその人に固定せんでも、その人みたいな役回りは、誰かがしないと成立せへんというこ

とが分かりますと上手いですよね。

ありがとうございます。他は何かありますか、どうでしょう。例えば今回、公園で専門家を呼んでワークショップをしようという。これも基本的に今言ったような形で整理いただいと、次の活動へ参考になるかと。具体的にどんな費用がかかって、で、それは公的支援を受けたとしても、全部お金の内訳を、例えば講師呼んできて謝礼繰り出したのか、交通費払ったのか、参加してくれるのは全部地域でこの場所に来ているのか、交通費は支給されているのかとか、その日の役回りはいったい解説をする司会進行は誰がやるのかとか、安全管理みたいな屋外で活動するときは必ず司会進行する人と必ず何人か安全管理する。それだけをこうやって子どもが事故に遭わないように安全管理するっていう役割は誰やってくれるんやとか。

結構昨日一昨日、先一昨日、地元でだんじり祭りがありまして、そういう地元のああいう伝統的なお祭りって、長年の間にその役割が全部配分されているんですね。当日の役割まで。ある一定年齢上がると交通整理だけ、だんじりが通る通りの交通整理だけやりますみたいな。体力に応じて、年齢に応じて、全部の役割が地元の祭りってできているんですね。だから継続していくんですね。しかもだいたい1回だんじり曳こうと思うと200万~300万くらいかかると。それほとんどお金公費が出ませんから、裏でどうやってその金集めるねん。花代って言って集めますけども、そんなやり方でやっている。その役割分担っていうのは、子ども会の頃からずっと青年団から順番に上がって行って役割がつくられるんですけど、こう新しいまちで何かやっというと思うと、その辺の仕組みってきっちりやっとかないと誰か出来る人が全部やっしてしまっていると、わかれへんです。どんだけ負担がかかっているか。だからできている人がどんな役割を果たしているかをきっちりメモっというて欲しい。案外大変なんです。冷静にこれちゃんと見とかなないと、ほんまにほとんどよく動いてくれる人とかよくリーダー的な人に、知らん間に仕事が全部いってて、そこでかなりのものが回っていると。その人いなくなったら回れへんみたいなことって多々起こるんです。で、そうすると後のできない人でも、前の会長1人でやっていたことを3人で分担してやりましょうかみたいな話になったりします。その辺ちょっと控えといてもらっというたら。

何か他ございますか、どうでしょう。それと、たぶん何個かこんな話があって、居場所づくりは今、金剛地域つながり応援実行委員会と連携しますとか、あったでしょ。あるいは、私なんかの専門でいうと、緑のネットワーク作り。これなんかは、昔で言う労働者住宅。金剛東のそこに大きな住宅団地ありますね。労働者住宅という。ちょうど309の下へ潜っていくところの片側サイドの、西側サイドの団地と言うのかな。あそこ1キロメートルくらいに渡って、ずーと緑道の花を育てている会がありますわ。かなりもう20年以上やられているでしょう。かなり今年もちょっと、別件でそこを表彰しようというので見学に行ったんですけど、かなり熱心にされてて。20年やられていますから、こういう緑のネットワーク作りみたいについてはかなりノウハウをお持ちで、植物図鑑に載っているような珍しいやつを植えましょうということでもかなり活動されています。

(吉村委員)

桜がきれいですね。だいぶ長いですね。あれずっとやっしてはるんですか。

(増田会長)

そう。それやとか今あった、これも私直接は知りませんが、富田林市の農業を創造する会。これは若手農業で、大阪府の農業支援、次世代農業を育成するための支援もここが少し今年引き受けて、活動していると。結構探せば、地域の中で色々なノウハウを持った団体が、結構ありますので。地域っていうのは富田林市内でね、ありますので。そういうところなんかを少し、ちょうど社協みたいな形で、こうやって実行委員会とつながっていただくと上手いんですけども。とか軽トラ市とつながってもらったりとか。そういう資源がいっぱいありますので探してもらおうとありがたいです。

あとはいかがでしょうか。どうでしょう。特に行政とか企業の方がまちづくりに参加していますんで、何か参加されていない企業の方で質問みたいことがあれば、皆さん積極的にいかれていますけども、どうですか。質問があればどうでしょう。

(藤本委員)

URの藤本です。居場所づくりに関しては、先ほど井筒さんからご報告ありました内容は、私は立场上認知しておりますので。我々がやろうとしていること、医療福祉拠点化っていうのに資することなんで、非常にありがたい。我々も何らかの形で支援をしていければなという風に考えております。その他のところで申しますと、ウォーキングコースの話は今日初めて耳にしたんですけども、我々は他の地域の団地です、団地の中にウォーキングコースを整備したというような団地が1つありますので、この話がもう少し具体化するのであればですね、何か我々の方へ情報をいただければですね、あくまで団地の中でしか私どもはお金が使えませんので、地域全体となりますとね、例えば市さんと地域の方と適切な分担というのがたぶん議論に出てくるだろうと思うんですけど、ノウハウっていうほどではないんですが、そういったことも一度経験はしていますので、このあたりもまた部会の方だったりですね、ぜひ教えていただければ、何かお手伝いできるのかなっていう風な感想を持ちました。

(増田会長)

この富田林の中にはウォーキングの会ないですか。堺市は健康づくりですから、保健所に登録している地元のウォーキング団体というのは、各区にだいたい10ずつくらいあるんです。

(事務局：坂口)

実は先週金曜日に、井筒さんも寺田さんも来てもらったあの会議の中で、そんな会があるっていうのを知って、具体的にそんなマップを作っているっていう例もたまたま知る機会があったので、この緑のネットワークづくりを具体化していく中で、話を聞きたいなど。で、一緒にウォーキングや現地視察をしながら作っていくということも検討していますので、そこに入っていればいいなという風にも考えています。

(増田会長)

なるほど。堺市の場合は保健所が支援してホームページ上で、いつ何日、どこに集まってウォーキングの会しますよっていうのを各区の保健所がサポートしているんですよ。そういう活動を。だから富田林市は行政がどっかそういうのをサポートしているんやったら、お金を出すかどうかのこう

のじゃなしに情報伝達板として、保健所が堺の場合はサポートしています。

(事務局：坂口)

で、もう一点。今その緑のネットワークづくりの話なんですけど、今年度か来年度具体的にこれをしていきたいと思っているんですけども、地区内の公園と公園を繋げていくって言う中で、市の公園はいいかなと思うんですけど、URさんの中の団地の中の公園を、外部の人がぞろぞろ歩いて行って休憩してっていう状況もこれを作ると出てくるかもしれないので、そのあたりは連携・協力で場所、休憩スポットだよとか、ここは通ったらこの景色がきれいだよとか、そんな地図に落とし込む協力をいただければなと思っておりますので。

(藤本委員)

少し難しい問題になってくるんですね。きっちり考えるとですね、なかなか団地の敷地に、いわゆるお住まいの方以外が入ってくるので、住宅管理上いかななものかなというのが内部的な議論がどうしても出てくるんです。ですから、歩くコースは公道とか市道沿いにさせていただいた方が。で、情報として団地に公園がありますというようなことだけを例えば載せるとか、何かしら上手いことしていきたいなど。

(増田会長)

そうですね。調査をすると、ウォーキングの会のルート設定は、2つくらいの要件で皆さんルート設定されててね、午前中2時間くらい歩けるよと。やっぱり短すぎてもアカンし、やっぱり午前中いっぱいいたい2、3時間のコースが設定できる。で、車との事故があんまり発生せえへん。それともう1つは集合と解散と途中で要するに体操をするくらいの広場が要る。駅前の広場に集合したり、公園で集合したり、あるいは途中経過に公園を入れて、そこでラジオ体操したりとか、そういうのされているので、ルートだけではなくて、広場とセット付きでないとなかなかウォーキングのルートって設定できへんのです。それは堺東のああいう市街地の中にもそういうウォーキングの会あるし、泉北ニュータウンみたいな割と緑道が発達したところにも、ウォーキングの会あるんです。今はやっぱり健康ブームですから。

(友田委員)

ちょっといいですか。今URさんの方から緑のネットワークで、今おっしゃったのはありがたいなあとと思っているんですけどね。今まちづくり会議で4つの部会をつくって議論してね、前からソフト的な話をしているんです。で、なぜかって言うとやはりまだまだ仲間が少なく、実際色々な方々を呼び込んできたりとか、集めたりとか。そういうのはまず1つの小さなところから始めて、実感もしていただきながら結果も出しながらね、そういった人を集めいってね、という手法をで取っているんですけどね。実際もう一つ金剛ニュータウンっていうのを大きく考えるとね、やっぱり富田林市の人口減少やったり高齢化であったり、南海電鉄の乗降客の減であったり、UR賃貸の空いているというような状態であったり、その前に狭山市は地価ぐんぐん下がってますよっていうようなことも出てますし、富田林市、狭山市全体として、この金剛ニュータウンだったり金剛駅前

をどうしていかなければならないとか大きい課題もあるわけですよ。で、そういった2つの面があるので、やっぱり地元に対しては、だんだんだんだんコミュニティを強化していきますよっていう動きが大事ですけども、やはり大きく変えなければならぬとか、エッジを立ててきっちりを見せていかなければならないところとかね。そういったものもあるので、やはりそういったその他の発想では出てこないようなところをね、具体的にどうするかとか、公園をどういう風に改良していくのかとか、やるお金もなかなかないので、民間を入れながら、どういう施設入れながら民間とタイアップしてつくっていくのか。そういう議論を別途しなければならないので、やはりまちづくり会議ですることと、協議会で議論することっていうのは、一定区別しながら進めて行った方がいいかなと。だからその入門くらいの地点で議論した方がいいかなという風に思っています。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。推進協議会っていうのは、ゆくゆくはまちづくり会議の世話人さんがここに入っているみたいな話が上手いような気がするんですよ。ここの会議をもっと大きくしても仕方ないですし、まちづくり会議そのものをどんどん大きくしても仕方ないかもしれませんね。世話人会議的なものはいるやろうと。まあ後でその辺の議論をしたら。

後他いかがでしょう。防災のところでは例えば結構消防署ってオープンにはしていませんけど、独居老人の位置全部把握しているんですね。なかなかそれをオープンにすると犯罪が発生したりしてオープンにしないんですけど。だから結構防災の中ではやっぱり災害弱者でもあるんですね。高齢者の方とかは。そういう災害弱者をどう捕まえましょうかみたいな話は防災の活動部会では出なかったんですね。

あるいは、子どもの通学とかでハザードマップづくりとか。ここは車が危険やとか、ここは痴漢がよく声をかけるとか。何かそんな話も防災活動では面白いかもしれません、とっかかりとして。あるいは防災訓練は、極端なことを言うと私なんかよくやるのは、お父さんのサバイバル作戦ですね。ちゃんと飯ごうで飯が炊けるのかとか、ちゃんと薪をおこして火を付けられるのかとか。家族で一晩ちゃんとなけなしの設備で、ちゃんと夕飯食って寝れるか。そういうやつをしたりとか。

あるいは、ここにあるように身近な視点で話して頂ける専門家っていうのは、高槻の駅前にある関大が防災の専門の学部があって、そこの学生なんかと先生なんかはよく地域で、防災の夕食づくりのサバイバルゲームやってくれたりとか。また必要でしたら、紹介します。

はい、どうぞ。

(皆見委員)

今防災っていうことであつたんですけど、10月の広報でお知らせしていますけれども、11月12日に今年度は金剛、金剛東地区を対象にした市の防災訓練が実施されます。で、いつも何するかということなんですけれども、金剛地区、金剛東地区の避難所、小中学校ですけれども、そこに避難していただいて、避難所としてそこに何が置いているか。で、置いているもの例えば、リヤカーでありますとか担架を実際に触っていただくってことも出来ます。ぜひ今後の参考にもなると思いますので、11月12日防災訓練参加していただけたらなと思います。

(増田会長)

うちの大学も去年くらいからですかね、地域に声をかけて。で、広域避難場所に大学が指定されているのに、大学の中だけで防災訓練していたんで、それを地元自治会の方々にも知ってもらおうということで来ていただいて、最後の講評会に自治会長さんも参加してもらって、そうして広域避難場所をちゃんと地域の方々に認識してもらわないと。あるいは結構備蓄があるんで、それも今おっしゃったようにちゃんとどんな備蓄を大学が持っているのかと一言をちゃんと知らしめるという。

色々なここでお話いただいている中では、結構色々な人材とか、色々な資源が含まれていますので。で、さっき友田委員から発言があったように一つは、やっぱりここで最初ちょっと言いましたように、将来につなげる為にお金がどう回っているのかとか、人がどう回っているのかとか、そういうところはある一定整理されているところで、そうしたら継続する際に来年どうしましょうとか。あるいは人の仕組みをどういう風な形でお互いに助け合うことができるんですか、というような話なんかはここでテーマにふさわしいかもしれませんね。ありがとうございました。

他いかがでしょう。福祉の方ではこの独居老人の居場所の確認みたいなことはされているんですか。

(小野委員)

はい、私は福祉関係のことやっていますので、今言われているのは居場所づくりってまさに、色々言われていて、一つは高齢者の目標ありますけど、もう一つやっぱりひきこもり問題なんかですね。ひきこもりの人たち、例えばURなんかにも8050問題なんか言われている問題とかあって、これは80代の親のところから50代の子どもの世代が仕事もせずに、結婚もせずに一緒に住んでいるみたいな。そうするともう50代で仕事していないわけですから、親は今年金なんかで暮らしているからいいですけど、親がいなくなったら一気に生活保護なっちゃいます。そういう人たちがどこにどういるかは、行政もなかなか掴めないんですよ。そういうのを少しでも居場所をつくりながら皆で支えていく仕組みの入り口をどうつくるかだし、で、もう一つはそういう人たちはなかなか、なんて言いますかね、ネガティブな感覚を持っているので、やっぱり行っちゃいけないみたい雰囲気を持ちちゃうので、そうじゃなくて皆が集まれる場所としての居場所みたいなのをどうつくっていくかっていうのはすごく大きなテーマで、そういうのがぜひ今後モデルができるといいなあっていうのがあります。で、URからもさっき出ましたけど、昔のURとはイメージが変わってきているのかなと思っていて、例えば今堺なんかで、これはちょっと今はやりの話をしますけど、子ども食堂とか言われるじゃないですか。なかなか子どもが食事を摂る機会がなくて、親が準備してくれなかったり。大阪府下の調査なんかでかなりの割合で、実際本当にあるんですね、実際子どもが食事していないということが。そういうので、これは多くの人に関心を持っているんですけど、その場所なんかをどうしようと言って、堺の方では、URのところにもあるような集会所なんかを使いながら、食事が出来るような、食事の準備が出来るような場所でやっていこうということで、その時も色々備品なんかも、URもかなり積極的にやってくれたというので、URも姿勢が変わってきたなと思いましたけども。そういうようなちょっとプラスの部分も秘めたようなアイデアも出てくれば、非常に面白いなあと考えていて。僕は2回目に増進型ワークショップをやったんですけど、



その時色々アイデア出てきた中で、これ防災の方で出てきた話なんですけど、防災モデルハウスってここに、会議で出されたアイデアの中に書いてあるんですけど、それを言った人は何言ったかと言うと、確か今空き家がかなりあって、どこか空き家を借りながら、本当にそこに行くとなんか色々なことがわかるようなそういうようなモデルハウスを作りたいと。それを言った人は銀行にお勤めの方で、言ったからにはその銀行からちょっとお金を貸してと言って。公共的な社会貢献としてモデルをつくってやっていくくらいの盛り上がりを出していけば、一通りのまちづくりを超えた、金剛ならではの特色が出せるんじゃないかなっていうのがあって、今みたいなかなかきてますので、そのあたりをちょっとここまでチャレンジくらいのあたりもそろそろ出てきているのかなという印象は受けました。

(増田会長)

わかりました。一点だけ余談ですけど、日本の公務員とか消防とか警察と、アメリカなんかと全く違うんです。災害が起こったときには、地元の片づけがちゃんと済んでから、出社しなさいなんです。消防署と言いながらも、警察署と言いながらも。公務員だろうと。そうでないと、日本は全部災害が起こると全部働いている職場へ召集かけられるわけですね。本当はごつつ異常なことで、極端なこと言うたら、ご老人と子どもしか残らないと、地域に。それで災害対応できるのかというところと、働き手がちゃんと自分ところの面倒が片付いてから職場へ出社するような社会システムに変えていかないと地域は維持できない。昔の地域というのは全部自営業の方がかなりいらっしゃったんで、昔の旧集落なり農村集落っていうのは。だから成立するんですね。ところがコンだけサラリーマン社会が進行すると、防災時になぜ職場に呼び出されていかなアカンのか。むしろ地元の周りを、まず発災したらそこで力を発揮しなさいというのが本来の姿でないと、地域が持続できへん。だからそんな具合に一社会情勢が変わってきてるということですよね。変わっているから変わっている状況へ対応するような仕組みを作るとかなアカン。皆が皆、府庁へ駆けつけたり、市役所に駆けつけたら、残された家はどうすんねん。全部後ろ髪を引っ張られるような形で駆けつけるわけです。せやけど、まだ地域で面倒みってくれる若い人たち、自営業の人たちがかなりいてると、それはそれで持つんですけど、おれへんかったら反対にそこ閑散としてしまう。ほったらかしになってしまう。まあそんなことも少し考えていかなければいけない構造ですよ。余談ですけども。

(友田委員)

そのへんで今ちょっと思い出しましたけど。防災のところ、寺池台三丁目の自主防災会というのをこの前つくったんですね。やはり我々、普段は出社してるからいないんですけど、普段にそういう組織体制きっちりつくって、やり方なんか身につけましょうと。ただ、色々女性の方々や老人の方々なんですけど、ある程度歳を取っているから力がなかつたりとか言われるんですけど、そうじゃない。現役のご老人でもできることが、例えば女性の方でもできることがありますよね。実際しているところもある。で、この講演会のそういう取り組みも、そういう方々にも皆色々なことが出来るんですよ。皆さんの力でコミュニティをきっちり作り上げるんです。そしてそれが普段できるようにするのは、我々自主防災会のほうで訓練をしながら、マニュアルをつくりながらやっ

ていきますよというような形でちょっと取り組もうかなとしているんですね。そういう講演会をぜひともお願いしますという話を今しているんです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。だいたいよろしいでしょうか。貴重な意見交換をさせていただけたと思います。ありがとうございました。それでは、この4回取り組まれてきたことを今後どういう風に発展させていくのかというので、両カッコの2番、今後の取り組みの進め方について、少しご紹介いただければと思います。

(2) 今後の取り組みの進め方について

(きんきうえぶ：寺田)

・資料3説明。

(増田会長)

はい、いかがでしょうか。3つほどアドバイスをいただきたいというのが出ておりますけども、どうでしょうか。はい、どうぞ。和田委員どうぞ。

(和田委員)

社協の和田です。私も防災部会の方に、この夏まちづくり会議に参加してみたんですけども、さっきの防災についての話題を少し加えて話すると、金剛の各校区で防災訓練っていうのは、ちょこちょこやってるけども、同じ日にやってへんよなってお話があって、目指すところ5年後10年後には、同じ日に各小学校ないし、どこかのポイント、拠点をもって、開催するのがいいねっていうのが、もう一つの目標で話が出てました。で、要援護者のことについては、URさんの自治会の方々が参加されていたときに、有線放送を使って避難行動の誘導を今度11月25日の日には、協力してくれるということで、寺池台っていう校区を限定したスイッチがそうなんですけど、それを活用して下さる、協力していただける。未来的に全校区で出来たら、全スイッチが入るといいなと個人的には思っています。ただ、寺池台の小学校で避難訓練をするのは初開催なんです。なので、ちょっと校区に差がある防災意識を高めるっていうことでは、寺池台が今回参画するということでは一歩前進じゃないかなっていう風に個人的に思っています。

で、職場というか社協としての立場で、この間まちづくりの坂口さんにも来ていただいたんですけど、地域福祉の方の交流会、同じような動きを取っている住民の交流会みたいなをした時に、金剛の4校区を集めて、このまちづくりの今の動きのご説明をいただいて、またグループワークで同じようなことをしているんですけども、その中で同じように世代間交流とか、課題とか、こうなっでほしいという思いは、ほとんどここに書いてある通りの部分が出てくるんですね。なので、未来的には合流できたらいいなと個人的には思うんですけども、さっきの防災の話と重ねて、金剛一体としてなっていくためには、情報を一元化することによって、発信も出来て、担い手も増えて、するんじゃないかと。ちょっとごめんなさい、ネットをされていない方には申し訳ないんですけども、ここ未来を担っていく世代っていうのは、ネット社会で生きている、生きて行こうとしている

ので、やっぱり SNS、Facebook、ここに書かれている情報の活用というのは、慣れているんじゃないかなと思うので、このまちづくりの Facebook から各校区の取り組みを載せていくなかで、そういう未来もここに出てきている課題についても、世話人とか代表者やってみませんかみたいなものを何か役割は必ずありますよということを記した上で、募集参画させていくっていうのは、やっぱり興味はあるけど役割があると嫌だわという方だけでは、今後は無理だと思うので、やっぱり役割もあっていいよと。だけどモノも言うよみたいな人がいいんじゃないかと思います。その情報の整理を校区別また金剛を中心としたものをつくっていくことで、今後金剛に限らず富田林の各校区でも同じようにリンクさせていくことが出来るんじゃないかなと思いました。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。たぶんね、こういう会議を運営していく、まさに事務局の役割の一つが、この情報の一元化とか、整理とか、情報の発信。それを一体誰がやるのかと。で、例えば今やと行政から委託費が出て、アウトソーシングをして NPO なり企業なりがそのサポートをするという、そういうやり方でずっと行くのか。あるいは本当は要するに今回のニュースレターを発行していただくという編集会議みたいなやつが、まちづくり会議の中で手が挙がって、編集会議がどちらかという情報とか、情報の一元化とか、情報宣伝ですね、情宣の役割を担ってくれると、そういう風になっていくと上手いんですけどね。結構 IT 産業に勤めてホームページつくるの自分得意やとか、会議中も速記のごとくパソコンで議事録を打って、帰るときにぱっと出してくれるとか、そういう能力を持った人って結構ようさんいてはるんですよ。そのへんのあたり、どう発掘してあれしていくのかと。たぶんいつまでたってもこのままアウトソーシングして、どっかに専門業者に入ってもらおうというのはかなりきつくて。いずれ自立していくときには、その情報機能というのは一体どういう風にしていくのかと。ただ皆さん方やっぱり一番大変なのは、この会議ではなくてまちづくり会議を一体誰が招集するんや。で、まちづくり会議の議事録みたいな誰がつくるんやとか。会議場所を誰が一体予約するんやとか。そんなところが事務局の機能として一番必要で、それをだいたい誰が担うんかという。たぶん行政の支援っていうのは、どちらかというところとどんな支援も、イニシャル支援。ランニングの支援ではなくて、初期 3 年間は要するにある一定公費を出資しますから、4 年目から自立してくださいねというのが、色々な基金とか色々な資金のやり方です。したがってそのイニシャルコストだけに頼っていると、金の切れ目が縁の切れ目になって、そこで活動が終わってしまうと。だからイニシャル支援がある間に自立化に向けてどれだけ皆が役割分担を認識していくかみたいな話やとか、結構皆隠れた能力をお持ちの方ってたくさんいてるんですけど、なかなか上手く引き出されへん。で、情報のやっぱりこういう非常に大事部分と、もう一つは今日も色々出てましたけど、まちづくり会議の大きな役割は色々な組織とのマッチングって言うんですかね。どんどんやってみましょうと。自分らだけで閉鎖的な会議ではなくて、どんどん連携できるころは大いに連携していきましょうと。そんな認識を持って展開をしていって、ゆくゆくは金剛ニュータウン、金剛団地全体で 1 つの協議体になって、社協の福祉の協議会も含めてもいいし、緑化の協議会も含まれているし、まちづくり協議会の名を称して、ワンストップ化されているような、そんな風な形へ、まさに和田さんなんかの意見でつなげていければ、その将来像を皆で持ち寄るだろうと。ありがとうございました。他いかがでしょう。はい、どうぞ。

(中井委員)

情報の発信のことですけど、うちの寺池台一丁目の町会、実は先ほど話があったように町会から最初は選出されて参加した。これが今は町会の役員から離れましたんで、個人で参加している形になっていて、そうするとね、役員も町会の会員自体も情報が流れないんですよ。私が会長とかと話をしても、そこから下まではいかないんですね。その点で一般の住んではる方は何やっているかはほとんどたぶん知られていない。この前たまたま老人会がうちあるんですけど、そこで指針の話をしてくれという依頼が来てましてね、まあせなアカンかなという風に考えているんですけど、まあそういう自治会の中にある色んな組織みたいなものありますよね。例えば公園愛護会とかね、ボランティア、そういうのに我々が参加している者が行って話をしないと今の町会の組織としては、ひっぱり全然しておらないという実情があるので、まあここでニュースレターというのを出ししてもらって、各戸配布とすればちょっとくらい違うのかなというイメージを持ってますけども、結局我々が動かなアカンかなという風に今思います。

(増田会長)

だからそういう面では、先ほどあった「ネットを使わないと」って話ありましたけど、やっぱり顔をあわせて各自治会訪問をするようなメンバーをここにね、編集会議ではなくて情宣メンバー、情報の宣伝を宣伝するっていうよく組合なんかでも情宣部会みたいなやつがありますけども、こういう情宣部会をやってくれる人が出てくるとありがたいんですけどね。だからニュースレターとか回覧板というのと同時にちょっと会長さんとこ行って、色々な情報を説明してあげてくれる。

はい、ありがとうございます。非常に大事なところですね。そのあたりどうやって発掘していくか。他はどうでしょうか。

それからこの新たなメンバー募集っていうところは、もうある一定自治会の枠組みを外して、参加いただくのは参加いただいているんでしょ。部会なんかでは。

(事務局：坂口)

部会ではいただいております。

(増田会長)

部会をやるといたり、イベントをするというのは、ある意味次の人材の発掘機会でもあって、そこから要するにメンバー発掘していくっていうのが1つやと思うんですけどね。

(きんきうえぶ：寺田)

今結構部会には新しいメンバーというのが徐々に入ってきているかなというのがあるので、あとはこのままどんどん部会にはそれこそ制限を設けずに、こういうことをやるからどんどん来てくださってという形でいいかなと思うんですけども、それとは別でまちづくり会議っていうのがあって、そちらをどのようにしていくかっていうのをちょっと考えないとダメかなというのがあって、一応今のまちづくり会議のメンバーっていうのは、ある程度ちゃんと町会・自治会って区切って

入ってきてもらっているんで、その枠を取り払うんやったら取り払うで、どういう風に取り払うのかを考えないとダメかなと。あとでちょっとご説明しますけども。

(増田会長)

どうでしょう。町会との関係性っていうことに関しては。

(友田委員)

前にもまちづくり会議で話してたんですけどね、今の状態がどういうことかっていうと、やっぱり色々なやる気のある方とかね、こういった人を集める時だと思うんですよね。ですから具体には今言ったように、皆さん入ってきてもらってもいいし、そういうことで増やして行って、いい人って色々熱心な方がおられるので、そういった方々の中から色々リーダーとか出てくるのかもしれないし、その時にまちづくり会議をどう考えるかですけどね、それはもう少し時間が経って、どういう人たちが部会に集まって、その時に考えればいいんで、今それをどういう風に枠を考えましょうって、その議論はちょっと置いといてもいいんじゃないかなと思いますけどね。まずは、人をどんどん入れていくっていうことで。でね、やっぱりこのパワーポイントの6ページの資料の中でね、プロジェクトチームみたいな人が書いてたじゃないですか。やっぱりこの2つでよくってね、丸い表ですね、6ページの。

(増田会長)

はい、資料2の6ページ。はい。

(友田委員)

そのあたりにどれだけ人を集めてくるかみたいな話で。私もこの前自主防災会をつくったけども320世帯あるんですけど、それで人をずっと全域から集めたのが13人の人。若い人も入ってきて、その中で幹事会をつくって、幹事会は6名で動かしているんです。それも若い子2人入って。結局我々ずっと作業してたんですけども、その子たちにね、だんだんね、私この資料つくりますわとか。今度は私がこれちゃんとつくりますわとか。私、広告とかそんなんやりますわって出てきますわ。そうやってやっぱりね。だからそういうような形で、いかにそういったものを1つの塊として動かしていくかっていうことで人って見えてくるんですね。こういう形ができたらいんじゃないかと思いますけどね。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。あの多分このとき議会で議論して、あの絵を何回か書き換えてもらって、今の絵になっていると思うんですけど。

この機運ができて、そこで確立していくと、先ほどちょっと言ったように私はまちづくり会議で全員入っても時間をもったいないだけですので、世話人会みたいなプロジェクトリーダー会議みたいな形へまちづくり会議がなっていくのかなと。そうでないとプロジェクト間の連携が図れなくなったり、全体を皆で何をやっているかわからなくなるという。部会だけで入っていると。だから

その風通しをよくするために少し世話人会議みたいになるのかな。

で、たぶんまちづくりされてたら、こんなん皆さん釈迦に説法ですけど、いつもよく言うのは、だいたい4階層ぐらいはおると。世話をしてくれるコアメンバーと、毎回ほぼ100%出席して汗かいてくれるクラブメンバーと、5回に1回くらいしか来えへんビジターメンバーと、更に、外側に反対せずに、ややビラ配りなんかに行ったらファンですよって言うてくれる4階層くらいあって、ファンも大事にせなアカンし、ビジターメンバーも大事にしないとイケないので、真ん中のコアメンバーとクラブメンバーだけでまちづくりって動かないので、コアメンバーとクラブメンバーと、外側にビジターとファンがあるみたいなそんな形で考えていって、誰でもが参加できる機会っていうのを、色んな参加の機会が準備されていると。ビジターとしても参加できるし、コアメンバーとしても参加できるし、今はまだちょっと子育てが忙しいからファンでおいといてっていう参加の仕方でもできるような。

他はいかがですか。事務局の方で、寺田さんの方で悩まれていて、こんなことをどう、と。はいどうぞ。

(中井委員)

たぶん市の方で1番悩んでいるのは、部会の世話人ですね、代表者というか、こういうのを早く決めて、その人たちと一緒にやっていって、ゆくゆくは私らに開催の指導権を渡していきたいというところだと思うんですね。これちょっと大事だと思うんですけど、部会は実は2回しか開いてなくて、2回の中でこれはという人も持ってはるには持ってはるんですけども、その人にすぐに世話人になってくださいっていうのは難しい。もう少し部会の積み重ねがあって、今言った4つの役割を持った人が集まって代表ですので、それを見極めるのは2回、3回では無理な話。そういう意味で今年1年で部会をやって、さっき先生が初動期3年っておっしゃってましたけど、3年がいいのか長いのか悪いのかわかりませんが、少なくとも今年は市の方で世話をしながら、来年度半々くらいにして、そして3年で動かしていこう。こんなくらいの長期スパンをもたないともう世話人の選出とかそのへんで、あんまり続くと部会事自体に参加しなくなってくる恐れがあるんです。その辺を少し注意していただけたらいいかなという風に思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他いかがですか。皆さんの中でどうでしょう。市民の代表の方々も会議に出てくださいってニュースの件とか。はい、市川さん。

(市川委員)

市川です。リーダーとか担い手っていうのは、ゆくゆくは必ず必要となってくるんじゃないかなと思います。ただ、今僕は実際まちづくり会議のイベントって形で参加させていただいていますが、じゃあリーダーをやってくださいって言われたときに、じゃあ実際自分が何をしたらいいのか。こんなことをしたらいいのかっていうのがすごくわからない状態で、リーダーをやりますって言うのはなかなか言えない状況かなと思いますし、実際来ている人数も少ない中でリーダーとなったときに、すごくやっぱり言われたとおり、責任であったりとか、そういうことの用意をすることとか

ていうのが不明なままではなかなかやりますとは言えないかなという風に感じます。

じゃあ今部会が4つある中で、これをやろう、あれをやろう、というのは細かくあると思うんです。例えば僕らがやっているようなイベントっていう形では、まあ僕は実際金剛バルの方に関わっているんで、あえて金剛バルの名前を挙げさせてもらおうと、じゃあ今後イベントで金剛バルに参加しましょうって言ったときに、金剛バルに参加するための中のリーダー的存在であったり、じゃあ朝市の中の、朝市をするにはこの人っていう風になって細かくその中で分けていったりすると、じゃあ朝市をするんやったら、知り合いのあのひとあのひとあのひとを呼びましょうっていう風になってきたりするし、じゃあ金剛バルでペットボトルツリーをするんやったら、あのひとあのひとを呼びましょうっていう風になっていくんで、ドンッと大きいリーダーを構えるというよりも、その4つの部会の中でも細かく分かれた、防災の中でも今度防災訓練やりますとかカフェやりますとかいう話で、カフェの中でのリーダー、リーダーっていう名前がよくないのかもしれないですけど、なんかこう名前を変えてやっていったらやりやすくなっていくんじゃないかなという風に思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。また更に何回かやっぱり実績を重ねていって、その中でどんな汗のかき方をせなアカンのか。とか、どれくらい汗をかいたらいいのかとか、そういうのをちょっと一旦実行してみて、その中からでもいいと思いますけどね。変わってなくてもね。皆さん方の話を聞いていると。

あともう1つはやっぱり役割がだんだん決まってくる。イベントを動かせば必ず役回りがないと回らないんで。基本的にはイベントをしようと思ったら、人・モノ・金なんです。で、モノの中には場所も備品があるということ。その辺はね、実はよう言うんやけど、サラリーマン社会って農村社会とちがってね、農村のまちづくりなんかによく使うんです。お手伝いするんですけど。まちづくりに大事な3つがサラリーマン社会には3つともないんです。1つは時間です。地域で消費する時間。旧村は割と先ほどあったように自営業があったりとかで、結構時間がある。サラリーマン社会でこういうのを大阪市内に行ってて、リタイアなってきてからだいぶそれは解消したんです。もう1つは農村社会に行くと、炊き出しするような大きな鍋やとか、そういう資機材をいっぱいお持ちなんです。ところがサラリーマンの家に座布団50枚おいてあるかって言ったら座布団50枚おいてないけど農村に行けば座布団50枚ある農家があるんです。そういうモノ。もう1つは農村ってある一定共有財産を持っていて、運営しているのでっていう。まあだんじりなんか全部あれ共有財産で生み出しているわけです。その中でサラリーマン側がニュータウンの中でどうやってまちづくりを起こしていくのか。あるいは継続していくのかっていうのはやっぱり案外慌てずにじっくり今日皆さん方の意見を聞いていると、じっくり会の実績を重ねながら展開していきましょうと。小さな成功事例を重ねながらやっていきましょうっていうのが皆さんからの意見ですね。案外最初から大きな、前だけ大きくせんでも。

他、何かあるでしょうか。いかがでしょうか。

もう1つは多分出しにくくて意見が出てないのが裏のページですね。ハード整備等が取り組みについて今後どう考えていくんやと。このあたりについては各部会からというより個人視覚でもいい

ですから何か意見ございませんか。たとえば公園活用部会で今ある公園をずっと使いまわしていこうという話プラスもっと利用活性化のためにはバーベキューコーナーがいるん違うかみたいな話が出てきたときに、そのへんの設備方針みたいなやつをどう考えるのか。そんな部会から何かあるんですか、どうですか。

(中井委員)

公園の部会ですね。公園と居場所づくりに参加してるんですけど、公園の中にですね、色々なものが出てくるんですけどね。今先生がおっしゃっていたように、中央グラウンドでバーベキューができるかという、皆さんができるのはバーベキューじゃないか。そういうバーベキューする場をつくろうとすると、当然金と人も要ります。金が要ってその場をつくらないと。あとはアスレチックみたいなもの、そういうのもつくれないかっていう話があったり、寺池では上手く散策しようとする、池の両サイドが市道に出ないと、公園の中だけでは回れないですね。中だけで回ろうとすると、公園の中に、無い部分に足していかなければならない、そうするとどうしてもハードものに行くんですけど、先ほどのネットワークについても、ルート選定をしてマップを作ったところで現地に案内板がなかったら歩いていけない。そういうことから考えるとハードもんとしての、安いお金かも知れないが要るやないかと。これをどうしたらいいのかを公園部会の中でも、そこはちょっと置いときましようかというような現在の状況で、そこに書いてある中長期的な展望っていうんですかね、そういう中でやるとなっているのもあって、それと市の方で実はそんな金ないっていう話があって、すぐできるものとしては、今のハードでも自分たちでできるものを考えていきましょう。その中でも先ほどのバーベキューなんかは自分たちでレンタルすりゃできるやんって話も実はあるんですけども、今後次の部会での話になってくるのかなと。とりあえず今は寺池公園のフィールドワークをやってみて自分らで何ができるのかを考えてみようっていうのが今の状況です。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(小野委員)

伺いたいんですけど、部会やる時の話し合いってどこでやっているんですか。具体的に場所、どんなところでやっているんですか。

(きんきうえぶ：寺田)

金剛連絡所の小さい方の会議室を使って、大きい方も使ったりも。あとはうちの事務所を使ったり。

(小野委員)

うちの事務所ってきんきうえぶの？

(きんきうえぶ：寺田)



きんきうえぶの。小金台のところで集まったりしている。

(小野委員)

ここで活動の拠点となる場所づくりと、たとえば常設の場所みたいなものがあればね、何かあったときにちょっと使わせてねっていうそういう場所のことですかね。これがあるかないかですごく活動が継続するかどうかだし、さっきのリーダー、リーダーになった時にですね、事務局的な場所っていうのが実は要る。今までは行政にやっていただいているけど、みんなでなんか力を膨らんでいくみたいなそういう場所があって、そこで色々知識が貯められていて、資料なんかもあって、まあそこにいくと何かやれそうかなみたいなものが上手くできていくと、そこがある程度連動して解決していきそうな感じがするんですけど、そういう候補があるかどうか。

(増田会長)

だから多分そのあたりは、遊休施設の活用度。UR賃貸の空き室も含めて、あるいは南海さんが持っている施設を含めて、市の施設も含めて。当然ね、小学校でもいいですよ。空き教室であったりとか何らかの意味で遊休施設を例えば活動拠点としてどうつくれるか。そこには電話回線1本と、ちょっとしたコピー機くらいがあったらいい。で、いつでも皆で部会が開けて、過去のデータを見ようかなとか、他所のまちのデータを見ようかなと思ったら、そこからインターネットで検索できるような、そんな感じ。

(中井委員)

居場所づくりの方で実際話出ましたけど、例えば寺池台五丁目っていうのは自分とここで集会所を持っておられない。うちの一丁目も実は自分のところでは持ってなくて、第三住宅の中に集会所があるんですね。最少単位の町会の中でも出したいくない。自治会の方が。そういうところを私、役員と話していきますと、いろんな話が出てきます。借家を借りるか、そうなってくると金が必要となってくる。ハードにつながっていくんですね。今おっしゃっているのは全体の事務局的な場所があれば、多分そこで自分たちの話ができるし、ていう話があって、資料にもあった一覧表を作ってもらおうというのがあったんですけど、それが実は市の方からの提案でもあったんですけど、集会所とか借りれる場所はどんなところがあるのか、というのを出しあって、まず一回つくってもらったら、その中で選んでいければ良い、当面は、そのような形で我々も進めていく状況ですね。

(増田会長)

これがね、行政にもお願いしときたいのは、やっぱり初期の現状でハード的・ソフト的に動く運動の次には必ずその活動を支えるためのハードが必要となってくるってことなんですよ。昔はよく箱ものばかりつくって、ハードがダメになったらソフトですよと言われた時期があって、ハードかソフトかみたいな話ですけど、最終的には全部言われている、まちづくりっていうのは全部OS付きまちづくり。ちゃんとハードとソフトが一体的に動いているまちづくりを展開しないとソフトだけハードだけっていうのはどちらも片方だけでは成り立てへんっていうのが実態ですわ。せっかく行政の初期事業、ソフト事業として動かしたら、その次の段階としては、ニュータウンの更新に

対してどんだけの税金を投入するか。どこから金を工面してきて、どんな税金の投入の仕方をするかは、やっぱり役所としては役所の役割として考えやなアカン。よくまちづくり指針なんかはつくったりして、地元の行動指針ですと言うんですけど、本当はこういう行動指針は二分冊で、行政の行動指針と地元住民の行動指針と、それがペアになって指針づくりされないといけない。行政だけの行動指針づくりに終わってしまったたり、住民だけの行動指針で終わってしまったりするんです。そやけど一体的に市との内部でこんだけ皆のおしりを仰いで2階にあげたわけやから、2階へあげた限りはちゃんと責任をとるという覚悟は行政の方にもある一定してもらわなアカン。巨大な金は突っ込めないと思いますけど、どないにかして工夫するんやと。まあ必然やと思いますよ。いずれそういう風にハードソフトが一体的でない、ソフトなんていうのは基本的にはハードがないと何の役にもならない。ハードもそうで、パソコンを見てもらったら一緒に、プログラムだけ持ってても走らすパソコンがなかったら全く意味がないんですよ。で、パソコンだけ持ってても走らすプログラムがないと何の意味もないんですよ。一体になって初めてパソコンが使えるんで、そういうのをワームウェアって言うんですけどね、ハードウェアとソフトウェアの両方と兼ねたウェアをワームウェアっていう言い方をするんですけど、そうでないと成立せえへん。

まあ1つは先ほど小野先生や中井副会長から出たように、皆の活動拠点となる居場所づくりというところから遊休施設の1つの利活用の1つの事例をつくれへんか。そのあたりが1つの突破口になるかもしれへん。

あとは、戸建て住宅の適切な維持管理、遊休ストック、空き家対策、これはひよっとしたら、まちづくり会議そのものでは扱えなくて、そこの中からそういうものを生み出して、不動産業者やとかいうのを含めてやるとか、あるいは泉北ニュータウンの場合にはこの戸建て住宅の適切な流通促進は、市が国の金をとってきて、市大の生活科学部の先生方とか学生を巻き込んで、そういう仕組みを一部つくってる。生活科学部の中には昔でいう住居学という建築系の学部があつてですね。そういうところを巻き込んで一部動いている。少し何らかの意味でこういうことをやっていこうと思うと、一番いいのは国の予算をとってくるっていうのが一番市にとってもいいんですけど。どこから財源探してみたいなこともせなアカン。はい、他。どうぞ。

(友田委員)

今ちょっと言われた件で、大きく色んな活動団体がおられるんで、こういった活動をまとめるような一元化するようなネットワーク拠点とか活動拠みたいな話でね。それとやっぱり古くなったというか、もともとURの開発思想で、真ん中に自然公園的に寺池公園とかね、中央公園とかあつたけども、今の状態から言う子どもを遊びに行かせたらダメですよっていう危険な状態になってるし。あそこは池でありながら水辺っていうのが全然活用できていないという形の池にもなってるし。そういった古いものとか今の時代に見合わないものをどういう風に変えていくのかということであつたり、本来もっと機能を持つべきところが機能を持っていない。それは駅前であつて、富田林市の端でもあり、大阪狭山市の端でもあるような場所やつたから、そういった駅前にそういった機能を集約できなかったことであつたり。そういったことを考えていかないと、金剛ニュータウンをこれから見たときに、若い人が入ってこないとか、乗降客もこれから増えないですよとか、色々な課題が出てくるんですね。やっぱりそういった大きな課題については行政の体制をきっちり考えて

いくとか、それをやろうとすると行政も当然財源がないから、民間をもっと入れてやりましょうとか、拠点づくりについてはURと連携しながらピュアを活用しましょうとか。それとか駅前であったら大阪狭山市ももっと共助できないとダメですよ、とすると協議会を設けるとかね。そんなこともしていかないと。だから住民は住民で頑張るんですけども、当然市が頑張らなければならない部分もあるので、これはもうタイアップしてやっていくっていうちょっと次のステップとしてね。我々はこうやってまとまってきたんで、我々は我々で頑張りたい。それともう1つね、地域だけでは解決できないことはやっぱり市も入って解決するような取り組みっていうのは1つ、次のステップとしてね。徐々に、一辺にできないのはわかっていますし、お金の話もあるし、色んな仕組みを入れていかないといけないですけども、スタートを切って検討するような段階に来るかなと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。多分両輪ですのでね、そのあたりは是非とも少しお考えいただいて、まあ言うようにそう簡単に予算化できるとか、そう簡単に行政が動くとは思いませんけど、やはりそういうことの意識がないと前に進まない。ということでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。そうしたらもう1点、この会議の議題が残っておりまして、「キックオフイベント・シンポジウムの開催について」と、これについて少しご提案いただければ。

(3) キックオフイベント(シンポジウム)の開催について

(事務局：坂口)

・資料4説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。まだ少し詰める時間があるのでということで、案という形で提案いただいておりますけど、何かいかがでしょう。少し今日聞かせていただいた時に、このシンポジウム型の話にプラス何か参加型のやつできないかなと。例えば会場の外でクラフト教室をやっているとか。あるいはこの会議が始まる前に地元の演奏家が演奏してくれるとか。あるいはまちづくり会議が1時間ほど、金剛ニュータウンのまちなみウォッチングで、全員は歩かれへんでしょうけど、2、30人でウォッチングするようなウォーキングをしてからシンポジウムに参加するとか。何か少し体を動かすみたいなやつも一体的に展開できひんかなというのが、先ほどお話しを聞いて。あとは皆さん方で例えば基調講演で他の誰か私以外でも呼んできたい人がおれば誰か呼んで来てもらってもいいと思いますし。まあ宝楽さんはお願いしているということで、非常に柔らかい方です。

あとは皆さん方の部会から何個か実験されると。カフェの実験もされるし、防災の実験もされるし、公園も実験されるし。部会で何個か実験されますから、その実験報告みたいなことを後半はしていただくということになると思います。

何かお気づきの点ございますでしょうか、いかがでしょう。千里ニュータウンでずっとこういうまちづくりを継続的に面倒をみて、かつ情報発信していくような山本茂というのが私なんかと同じ歳なんですけど、6月の館山連峰で滑落事故で亡くなってしまったんです。泉北ニュータウンの前

の時のシンポジウムには出ていただいたんですけど、千里の事例を発表してくれまして。

他何かいかがでしょう、どうでしょう。これは部会か、まちづくり会議で何回か議論できるんですか？

(事務局：坂口)

部会は、10月、11月たくさん機会がありますので、まだまだ議論できます。1回はまちづくり会議の全体会も挟んでいきますので、そこでもう少し。

(増田会長)

誰にトークに出てもらおうとか、どの実験を報告してもらおうのかとか、そんなんを皆さん方で決められたらいいんじゃないかなと思うんですけどね。金剛バルは催して地域に住んでいる音楽家みたいなのをひっぱり出したりされているんですか。

(市川委員)

特にどの地域っていう風限定してなくて、ホームページとかSNSで宣伝して出していつてっていう感じで。今年は1つの目玉としては金剛高校の方にオファー出して承諾を得たので、金剛高校の吹奏楽部と軽音楽部と、どういう形でというのは決まってないですけど、やってもらいたいというのは了承いただいているので。ただ地域という形では一緒に出来るかなと。

(増田会長)

多分そういうのが大事ですよ。初めてふらっと親子で出掛けてみようかとなると基調講演とトークショーだけではちょっと敷居が高いなと。その前に音楽会、あるいは体験会でもあれば、ちょっと参加してみようかことになるんやろうけどね。

何か他ございますか、どうでしょう。溝口さんなり、山田さんなり、吉村さんなり、出来るだけ参加で。全体を通じてでもいいんですけど。

(吉村委員)

僕なら金剛中学がよく練習してるなと、吹奏楽ね。ああいう地域のそういうのがええかなと。金剛高校も今出てんけど高校やから、金剛バルやったら中学の吹奏楽もええかなと。この前運動会が金中と葛中とが大体一緒にやりますよね、あのとき動員があつて行ったんやけども、やっぱり地域の人たちが集まってきてるし、その地域の元がやっているっていうのはすごくインパクトがあるんかなと。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。何か山田さんはありますか。

(山田委員)

シンポジウムなんですけど、できるだけ地域におられる次世代を担う若い人たちをやっぱり出来

るだけ来ていただくっていうのが1番いいと思うんですね。まちづくりって諸先輩方の知恵とかそういうのが大切なんですけど、若い人の意見っていうのもどういう風に後世に伝えて反映していくかっていうのが重要だと思いますので、そういう若い人をシンポジウムに参加していただく仕掛けが重要かなと思いますね。

(増田会長)

どうですか。公園部会にクラフトをつくるようなそんなメンバーいたら。

(中井委員)

今は、まだどんなことが出来る人がおるのかがわかっていないので。私は、別のNPOでおった時にそういう人がいるのがうらやましくて、間伐材を使って色々つくったり、子どもと一緒にね、やってもらえますしね。そんなんがあれば面白いかもと思いますけども。この団地の中にはるかどうか。

(増田会長)

溝口さん、いかがでしょう。

(溝口委員)

今日は特に。

(増田会長)

中西さん、どうですか。

(中西委員)

1つ、金剛地区について言うとね、割と住まれてから10年とか15年とかの方は、あまり歴史をご存知ないんで、例えばパネルとか写真が結構あるんで、それをシンポジウムの時に「こういうところからスタートしたよ」というところをね、もう1回見ていただいたらなと。

(増田会長)

それ、非常に色々なところでよくやってはるんですけど、家にあるニュータウンの写真、それを全部集めて写真展をしますからみたいなのはいいと思うんですね。

(中西委員)

ただ話を聞くだけじゃなくてっていうのはいいかなと。あと、集会所の話でさっきのソフトとハードの部分で言うと、やっぱりお金っていうこととか、僕が商売人のせいなのかもしれないですけど、頭にあって。イベントっていうことで、ふれあい大通りの名前をまず変えたらいいって話も出たんですけど、そのときにお花の話が出たんですけど、要するに2つ意見があって、季節ごとという話と金剛地区がシンボリックになるような植え込みなんかにしたらどうかっていう話が出

たんですけど、現実問題まずそしたらお金の話と世話人の話と。ハードでいうとお金の面。そもそも誰がやるっていう話でなかなか進まない。そのあたりをこれからどのようにしていくか。

(増田会長)

それはせやけど、頭の片隅に必ず入れておいてもらわないといけないんだっていう視点でね。ご商売されているからではなくて、やっぱりどうやって金が回るねんっていうことを考えないと事業って頓挫します。補助金ある時は動きますけど、なくなった途端に頓挫しますので、それはぜひとも大いに声を張り上げていただいて。

(中西委員)

バルの会計もやっているんで、皆使いたいことは言ってくれるけど、お金集めることはなかなか言ってくれないんで、そんなんどうするんって話。

(増田会長)

一昨日も私は地元じゃなくてニュータウンに住んでいるんですけど、谷筋の農村集落行って、だんじり1回曳いたらどのくらい金を集めてるねんと。大体250万前後集めていると、毎回ね。1軒あたりにしたら結構な出費をされているんですよ。あと、せっかくですから大平さんと池田さん、ちょっとだけ一言でも大丈夫ですから。

(三崎委員代理：大平氏)

今日は代理参加ということで、あまり言うべきではないかと思ったんですけど、全体通して感想も踏まえてなんですけど、実際こういった取り組みとといいますか、府内では同じような問題や課題を抱えている地区がたくさんある中で、話が進んでいるような取り組みだと思いますので。大阪府としては、こういう取り組みを先進事例としてですね、いろんなところに広められるように、是非成功していただきたいなというのが1つ。あと、会長も何度かおっしゃっていましたが、私地元が泉州の方で、だんじりじゃなく布団太鼓のところなんですけど、お話の中でいくつか出てきましたけども。いろんな組織のリーダーが出てというところで行くと、1番トップの町会のリーダーがいて、次に次の世代のリーダー、若頭のリーダー、青年会の会長、それぞれが役割をもって、その立場になれば今までの経験を活かして、リーダーシップをしながらまちづくりを成功させる、みたいな流れになっているんですけども、そういう過去からの歴史で今そういううまく回っているんで、この地区でもそういうリーダー育てっていうのはじっくりやってもらって、それを見ながらまた育てていけるような形で、どんどん地区が長く発展していくような形が1番ベストかなという風に思いました。

(増田会長)

ありがとうございました。

(池田委員)

南海の池田です。先ほどちらっと出ている駅の乗降客数の話なんですけど、これは本当にすごく大きな課題であると捉えておりました、乗降客の減の前に地域の人口のお話がある中でですね、私の今のポジションで皆様と一緒に取り組んでいけることはないかなというところで動いているところなんですけども、このまちづくり会議が4回もあったんですが、部会にもなかなか顔が出せない状況で様子がわからないもんで、とりあえずはこの金曜日にカフェのところにできるだけ顔を出させてもらって、そこから始めさせていただけたらなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。1つだけ余談ですけど、南海さんと泉北ニュータウンの話をしているとね、泉北ニュータウンが和泉ヶ丘、梅・美木多、光明池の乗降客数の減が非常に目を追うくらい減している。それが1駅手前の深井という駅、ちょうど府大の裏側あたりですけど、そこは乗降客数は案外変動していない。やっぱり一般市街地っていうのは、ある意味したたかな更新の仕組みをもっていて、ニュータウンっていうのはどこか人間がつくったまちで、そういう更新の仕組みがどこか欠けている。そんな話を南海の人たちとして、1駅違うだけ。1駅違うだけで急激に乗降客数が減っていくエリアとしたたかに維持できているところとある。そんなんで見ると、ニュータウンから一般の街へどう脱皮していけるのかっていう話がいつまで経ってもニュータウンでは手に負えないっていう話をしていたんですけどね。

はい、ありがとうございました。今日は一応全員参加いただいた方にご発言いただいたかと思えますので、ありがとうございました。また次回推進協議会で議論するということであると、委員からも出てましたけど推進協議会で協議しないといけない内容は、少し準備していただいて議論する。ただの意見交換ではなくてね。そんなことも考えていただければ。

ご協力ありがとうございました。事務局にお返ししたいと思います。

4. その他

5. 閉会

以上